

島田さんは、国語の学習で慣用句かんようくについて調べたことを発表します。次の【発表原稿】げんこうを読んで、あとの問いに答えなさい。

【発表原稿】

- ① 「説明するのに骨ほねが折れたよ。」と話しているのを聞いて、「なぜ、説明している骨が折れたのかな。」「骨が折れたらたいへんじゃないの。」と思った人はいませんか。
- ② この言葉は、「骨」と「折れる」が組み合わせあって、「苦勞する」という意味で使われています。このように、いくつかの言葉が組み合わせあって、新しい意味を持つようになった決まり文句を慣用句といいます。
- ③ 慣用句には、手やむねなど体に関する言葉をふくむものがたくさんあります。例えば、「むね」がふくまれている慣用句には、「むねをはる」「むねにきざむ」「むねがいつぱいになる」「むねがおどる」などがあります。また、動物や植物に関する言葉をふくむものもあります。「馬が合う」「すずめのなみだ」「竹をわったような」などです。
- ④ 慣用句を使うと、びみょうな心の動きまで、うまく相手に伝えることができます。例えば、「ほんの少しの雨」を「すずめのなみだほどの雨」と言いかえてみると、雨がふらない切実感がぐっと心にせまってきます。「さつぱりしたせいかく」を「竹をわったようなせいかく」と言いかえれば、その心地よさまで伝わってきます。
- ⑤ 調べているうちに、それぞれの慣用句から心の動きが生き生きと伝わってきておもしろくなりました。慣用句をうまく使って、自分の表現をゆたかにしていきたいと思います。

一 部「この言葉」は、どの言葉を指しているのでしょうか。次の1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- 1 「説明するのに骨ほねが折れたよ。」
- 2 骨が折れた
- 3 「苦勞する」
- 4 慣用句

二 慣用句がどのような言葉なのかを説明している一文を【発表原稿】から見つけ、そのはじめの五字を書きなさい。

三 — 部の「むね」がふくまれている慣用語の意味を、1から6までの中からそれぞれ一つずつ選んで、() にその番号を書きましょう。

- 「むねをはる」：() ()
- 「むねにきざむ」：() ()
- 「むねがいつぱいになる」：() ()
- 「むねがおどる」：() ()

- 1 ほこらしそうにすること。
- 2 たいへんおどろくこと。
- 3 わくわくすること。
- 4 しつかりと覚えておくこと。
- 5 いろいろと想像すること。
- 6 心が強く動かされること。

四 — 部「馬が合う」とありますが、この「馬が合う」の使い方としてもっともふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- 1 わたしと小川さんは、帰り道がいつしよなので、馬が合う。
- 2 みんなで馬を合わせて、心に残るキャンプにしましょう。
- 3 ぼくと中原くんは、学年もちがっているのだけれど、なぜか馬が合う。
- 4 相手チームの小山さんと馬が合つて、大接戦をくりひろげた。

五 島田さんは、発表内容の組み立てを、ふせん紙を使って考えました。次のふせん紙のメモは、【発表原稿】のどのだんらくにかんするものですか。だんらくの番号を、() に書きましょう。

- ① よく似た使い方とくらべ慣用語のよさを伝える。 … () だんらく
- ② さまざまな慣用語の例を挙げる。 … () だんらく
- ③ 問いかけて、慣用語への関心を引く。 … () だんらく

解答

一 2

二 このように

三 「むねをはる」…(1)

「むねにきざむ」…(4)

「むねがいつぱいになる」…(6)

「むねがおどる」…(3)

四 3

五

① (4) だんらく

② (3) だんらく

③ (1) だんらく